

會務報告

第24卷 第8號 昭和13年8月1日

役員會

第10回理事會(昭. 13. 6. 20)

出席者：辰馬會長、新井副會長、金子、高橋、山崎、樋木、川口各理事、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任、糸川編輯主任

報告

1. 關西支部第5回役員會議事を報告せり。
2. 土木學會防空施設研究委員會決定事項別紙(省略)の通り報告ありたり、依て之を會誌に登載し會員の意見を求むることゝせり。
3. 時局對策委員會に於ける次の緊急決定事項を報告せり。

黄河決済對策に關する件

- (1) 政府に對し急速に技術者を派遣し對策を講ずる様建議すること
- (2) 土木學會として調査員派遣の用意を爲すこと
- (3) 黄河決済對策を考究するため特別委員會を設け委員に次の諸君を依頼すること

眞田秀吉君 宮本武之輔君 富永正義君
森田三郎君 高橋嘉一郎君 伊藤剛君

尙黄河決済對策委員會は黄河研究委員會と改稱することゝせり。

議事

1. 時局對策委員會委員に眞田秀吉君、富永正義君を追加依頼することゝせり。

入退會の件

大阪市役所外4會社を特別員に、岡本正君外2名を會員に、井内大治君外28名を准員に朝倉信義君外39名を学生員に入會を承認し、准員成松清雄君外1名を會員に、学生員伊藤三郎君外39名を准員に転格を承認せり。

3. 土木學會員の戰死者並に之に準ずる者に對しては土木學會誌に寫真及経歴を登載し慰靈することゝせり。

4. 關西支部申出に係る特別員會費を支部に於て徵收の件及本會より支部に對し貸付金を爲すの件は差當り審議する必要なきものと認む、而して別に本年6月までに於ける特別員入會數及收入金を計算しその半額

を交付し尙その際前年度に於て承認したる第1回年次學術講演會費不足額を併せ交附することゝせり。

5. 土木工學論文抄錄追補第1輯編纂のため土木工學論文抄錄編纂委員會を設置し委員に次の諸君を依頼することゝせり。

阿曾沼 均君	青木 楠男君	伊藤 信君
伊藤 剛君	糸川一郎君	内山 實君
小野基樹君	大岡 祖三君	太田尾廣治君
風間 武雄君	樋木 寛之君	草間 健君
久保田敬一君	末森 猛雄君	鈴木 雅次君
關 信 雄君	田 中 豊君	高橋 三郎君
立花次郎君	谷 口 三郎君	當山道三君
野 口 誠君	廣瀬孝六郎君	平山復二郎君
藤井 真透君	宮本武之輔君	安宅 勝君
山 口 畏君	山崎 匠輔君	吉田徳次郎君

第11回理事會(昭. 13. 7. 4)

出席者：新井、平山兩副會長、金子、山崎、樋木各理事、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任、糸川編輯主任

報告

1. 日本工學會臨時社員總會議事(理事長に俵國一君當選)の報告をなせり。
2. 高橋嘉一郎君、高橋三郎君に對し黄河調査方を依頼し6月29日出發せられたり。
3. 請負工事標準契約書調査委員會委員長より請負工事標準契約書決定案を報告ありたり、依てこの決定案は草案説明書を附し會誌に登載することゝせり。

議事

- ✓ 1. 招聘外人遺功調査委員會の名稱を外人功績調査委員會と変更することゝせり。

2. 外人功績調査委員會委員に眞島健三郎君、阿曾沼均君、樋木寛之君を追加依頼することゝせり。

3. 會誌編輯委員會委員佐藤寛政君の後任に黒澤喜代治君を依頼することゝせり。

4. 土木工學論文抄錄編纂委員會委員平山復二郎君の後任に淺間逸雄君を又黒澤喜代治君、五十嵐醇三君を委員に追加依頼することゝせり。

5. 地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會委員に山崎 匠輔君を又幹事小澤久太郎君の後任に中村清照君を依頼することゝせり。

6. 土木學會西部支部設立發起人土肥憲二郎君外29名より申請に係る西部支部設立並に之に伴ふ支部規定及内規を原案(省略)の通り承認せり。

7. 土木學會西部支部長に君島八郎君を發起人會に於て選任せる旨報告ありたるを以て依囑することゝせり。

8. 外人功績調査及行政機構改正案に就て座談會を開催し記録を探ることゝせり。

第5回常議員會(昭. 13. 6. 20)

出席者：辰馬會長、新井副會長、金子、高橋(嘉)、山崎、樋木、川口、阿曾沼、青木、伊藤、菊池中村各委員、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任、糸川編輯主任

報 告

1. 本會代表中支觀察員は6月11日東京驛を出發せり。

2. 7月12日中支觀察員に依る講演會を開催することゝせり。

3. 近藤泰次君より中北支觀察報告を別紙(省略)の通り報告ありたり。

4. 會誌編輯委員大川一郎君転任に伴ふ後任に立花次郎君を依囑せり。

5. 時局對策委員會委員に眞田秀吉君、富永正義君を追加依囑せり。

6. 土木學會防空施設研究委員會決定事項別紙(省略)の通り報告ありたり。

7. 入退會を別紙(省略)の通り承認せり。

議 事

1. 招聘外人道功調査委員會を別紙要綱(省略)の通り設置することゝし委員に次の諸君を依囑することゝせり。

安藤杏一君 赤木正雄君 伊藤長右衛門君
久保田敬一君 真田秀吉君 那波光雄君
中川吉造君 丹羽鉄彦君 福田次吉君
名井九介君 茂庭忠次郎君 山崎匡輔君

2. 土木工学論文抄錄編纂委員會を別紙(理事會議事參照)の通り設置することゝせり。

3. 對支中央機關内に技術的指導機關設置方を別紙(省略)の通り建議することゝせり。

4. 本會々員の戰死者並に之に準ずる者に對しては土木學會誌に寫真及經歷を登載し慰靈することゝせり。

5. 追加議案として時局對策委員會の申出による建

議案に付理事會採擇の場合は建議案文及提出は會長に一任することゝせり。

總 務 部 記 事

第4回時局對策委員會(昭. 13. 6. 10)

出席者：中川委員長、米元、山口、金子、高橋、樋木宮本、川口、高橋(三)、内海、永井各委員、辰馬會長、新井、平山兩副會長、山崎理事、中村書記長、小野寺庶務主任

1. 内務省及鉄道省所管の土木事業継延現状に就き書類に依り報告し、次で平山復二郎君の北支に於ける鉄道に就き、樋木覚之君の上海に於ける都市計畫に就て視察談を聽取し、談事は時間の關係上次回密議することゝせり。

第5回時局對策委員會(昭. 13. 6. 17)

出席者：中川委員長、金子、高橋(嘉)、宮本、伊藤、森田、永井各委員、辰馬會長、富永正義君、中村書記長、小野寺庶務主任

議 事

1. 黃河決潰對策に關する件を緊急議題として討議せり。

2. 討議に先立ち辰馬會長より提案に就き説明あり之を如何に取扱ふべきかに就ては宮本委員より次の如き意見を述べらる、黄河の治水に就ては土木學會としては大なる關心を以て行動を起すことが必要であり技術者の團體として當然であり、その方法としては先以て陸海軍に對しては技術者の派遣方を建議し、土木學會としても應急對策並に水止對策を講究し何時にても他に協力し得る準備ある事を表示すること。

その他各委員の意見交換の結果次の結論を得て實行に移ることゝせり。

(1) 陸海軍部に對し急速に技術者を派遣し對策を講ずる様建議すること(草案を宮本委員に依頼すること)。

(2) 土木學會として調査員派遣の用意を爲すこと。

(3) 黃河決潰對策特別委員會を時局對策委員會内に設け委員に次の諸君を依頼すること。

眞田秀吉君 宮本武之輔君 富永正義君
森田三郎君 高橋嘉一郎君 伊藤剛君

第14回土木學會文化映畫委員會(昭. 13. 6. 13)

出席者：金森委員長、五十嵐、金子、片平、澤、瀧尾横田各委員、中村書記長、小野寺庶務主任

議事に先立つて義に借入れた下記映畫の試寫をなせり。

- (1) 大阪市高速鐵道開拓式地下鉄工事外(大阪高速鐵道部)
- (2) 筑後川改修工事、門司港修築工事(内務省土木出張所)
- (3) 貢き犠牲(茨城縣)
- (4) グレーンエレベータービン新築工事(大倉土木)
- (5) 鶴見工業港(東京灣埋立會社)

而して以上の内優秀映畫と認むべきものは次の2種であることに委員の意見一致を見た。

筑後川改修工事、門司港修築工事

議事

1. ニュース映畫購入豫算の承認ありたるを以て早速日本ニュース實寫映畫聯盟に對し交渉すること。
2. 上記優秀映畫のネガの有無を調査し部分的譲受けに就き交渉すること。

第1回招請外人選動調査委員會(昭. 13. 6. 22)

場所： 東京會館

出席者： 赤木、伊藤、久保田、眞田、那波、中川、丹羽、福田、名井、山崎各委員、辰馬會長、新井、平山兩副會長、金子、高橋、川口各理事、中村書記長、小野寺庶務主任

辰馬會長より本委員會設置に關し挨拶あり、次で委員長及副委員長の選任を會長一任とし次の通り就任せられたり。

委員長 那波光雄君 副委員長 真田秀吉君
午餐後議事に移り次の事項を協議決定せり。

1. 山内靜夫君、阿曾沼均君、眞島健三郎君を委員に追加依頼すること。
2. 各部門に依り功勞外人を調査することゝし各部門擔任及主査を次の通り定む。

- (1) 鉄道： 久保田(主査)、阿曾沼、山崎各委員
- (2) 河川、砂防： 名井(主査)、中川、伊藤、赤木、福田各委員
- (3) 道路、橋梁： 名井(主査)
- (4) 港灣： 丹羽(主査)、安藝、伊藤各委員
- (5) 上下水道： 茂庭委員(主査)
- (6) 陸軍： 山内委員(主査)
- (7) 海軍： 真島委員(主査)
- (8) 教育： 山崎委員(主査)

(9) 其の他： 福田委員(主査)

3. 内閣及賞勳局に於て功勞外人の氏名を調査し各部門に分ちその功績を調査編纂すること。
4. 會務嘱託として平野、坂本兩君の内何れか1人を依頼すること。
5. 幹事に福田、山崎兩委員を依頼すること。
6. 第2回委員會を7月1日(金)開催することゝし適當の時期に於て座談會を開催すること。
7. 昭和14年6月までに調査材料を蒐集すること。
8. 本委員會の名稱を外人功績調査委員會と変更すること。

午餐會(昭. 13. 6. 13)

内務省關係の土木學會地方委員を東京會館に招待し午餐會を開催せり。

出席者： 吉岡計之助君、岩崎雄治君、三輪周蔵君、横山喬君、西義一君、淺見洋君、荒木榮二君、竹内常八君、熊田隆治君、後藤季總君、杉山宗次郎君、井藤正雄君、平野重市君、上井兼吉君、山口十一郎君、關谷新造君、尾崎義一君、田沼實君、平川保一君、城戸鈴吉君、大石巖君、河合清君、佐藤清治君、小坂忠一君、佐々木銑君、窪田廣君、中忠義君、三宅發造君、大島六七男君、丸山悦三君、中村滿輔君、飯島馨之助君、宮崎正夫君、鈴木健二君、谷堅君、木村又治君、山極二郎君、千葉房君、加藤平吉君、土肥憲二郎君、緒方虎之助君、古賀久六君、上田柳一君、寺田甫君、山本廣一君、猿谷新太郎君、神保金衛君、佐藤利恭君、鈴木雅次君、藤井真透君、辰馬會長、新井、平山兩副會長、金子、高橋(嘉)、山崎、棚木、川口、阿曾沼、伊藤、菊池、森田、各常議員、中川、那波、名井、武田、大河戸各前會長、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

晚餐會(昭. 13. 6. 21)

委員會の事業終了せる下記委員會委員を東京會館に招待し晚餐會を開催せり。

出席者： 財政調査委員會： 前川、大竹、沖鷗、佐土原、萩原、三浦、宮長各委員
行政機構改正調査委員會： 八田、小野、宮島、池邊各委員
企畫委員會： 米元、青木、糸川、太田尾、須之内、町田、瀧山、松井、山岡各委員、辰馬

會長、新井、平山副會長、金子、高橋、山崎
阿曾沼、青木、海老、森田各常務議員、岡野
那波、名井、眞田、大河戸各前會長、中村書
記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

午後 6 時 30 分開會、辰馬會長より 3 委員會の事業終了に當り委員各位の御盡力に對し感謝の意を表し、前川財政調査委員會委員長より 3 委員會委員を代表して挨拶あり午後 8 時散會せり。

晚餐會（昭. 13. 7. 6）

中支土木事業の視察を終り歸朝せられたる井上秀二、青山士兩君を美松に招待し晚餐會を開き長途の勞を慰めて次で視察概要の報告を受けたり。

出席者： 井上秀二君、青山士君、辰馬會長、新井副會長、金子、山崎、岡田、樋木各理事、中村書記長、小野寺庶務主任

編 韓 部 記 事

第 7 回會誌編輯委員會（昭. 13. 7. 4）

出席者： 山崎委員長、伊藤（信）、大岡、太田尾、風間
黒澤、當山、野口、廣瀬、安宅各委員、糸川、
志村兩編輯嘱託

協議事項

1. 第 24 卷第 7 號所載の原稿に對する謝禮を決定す。

2. 第 24 卷第 8 號へ下記を追加す。

講 演： コンクリート高堰堤の築造に就て（會、大西英式）

論説報告： 防空施設研究報告（防空施設研究委員會）

抄 錄： Geological Survey の地表水質測、閘門及堰堤のコンクリートの改善、ベルギーの熔接橋破壊、Marshall Dam の破壊原因、道路建設に於ける綿布、78 吋軌條の試験的架設。

時 報： 新日原水力建設工事概要、第 27 回保線講話會、土木主任官會議、都市計畫主任官會議、都市計畫關係決定事項、中央防空委員會、港灣協會第 11 回通常總會、鐵鋼配給統制規則、上十條跨線橋設計概要、道路研究會、第 118 會例會水力協會創立。

3. 第 24 卷第 9 號登載を次の如く決定す。

講 演： 大阪内港問題（會、三輪周藏）

論説報告： 滲過阻止率の計算（會、岩崎富久）、耐震構造の新方法統報（安宅委員會）（會、鷹都屋福平）。

討 論： 有峰堰堤の施工法に就て（著者へ照會中）

（會、安藤新六）

彙 報： 渡川水力電氣株式會社佐賀發電所工事概要（野口委員）（會、薄井藤壽郎）、Chinese National Railway（安宅委員）（會、山下清吉）

抄 錄： 伊太利に於ける最近のコンクリート橋、鋪装のスピード化、ゲルバー鋼桁橋の鉄、土堰堤基礎のセメント注入、水理研究委員會報告、戰亂支那の土木工事、Belfast 航空港（港灣計畫の新分野）、Dayton 航空港、ニューヨーク萬國博覽會の交通對策、Rhône 河開發計畫の第一階程、可動堰の最近に於ける進歩に就て、背面土砂捣固めが擁壁体の安定に及ぼす影響、水路に於ける水流、地下水流に對する新しい考察、長徑間のコンクリートボックスガーダー、ポンネビル堰堤の世界記錄閘門扉の架設、道路擴張の根本原理、ライアン河と Upper Mississippi.

4. 佐藤寛政委員の後任として黒澤喜代治君を依頼す。

5. 下記 2 項目に就き協議せり。

（イ）「土木工學論文抄錄」に抄錄すべき雑誌名選定の件。

（ロ）構造士法案討議依頼の件。

第 1 回土木工學論文抄錄編纂委員會（昭. 13. 7. 4）

出席者： 久保田委員長、阿曾沼、青木、五十嵐、糸川、内山、大岡、太田尾、風間、樋木、黒澤、立花（代理）、谷口、當山、小野、野口（代理）、安宅、山崎各委員、辰馬會長、新井、平山、兩副會長、金子理事、中村書記長、小野寺庶務主任

議事に先立ち新井副會長より本委員會設立の趣旨及目的に就て挨拶あり、直ちに協議事項に入る。

協議並に決定事項

1. 委員長を久保田敬一君に選任す。

2. 幹事を委員糸川一郎君に依頼す。

3. 委員に末森猛雄君、大久保一郎君、五十嵐醇三君を追加すること。

4. 刊行物の名稱を「土木工學論文抄錄第 2 輯」とし抄錄すべき論文は昭和 9 年 10 月刊行せる「土木工學論文抄錄」以降のものを昭和 13 年 6 月末迄に就き行ふものとす。刊行物の大さ、体裁、内容等に關しては大体に於て從前通りとす。

5. 部門を下記の如く 20 に分ち各部門に助手（括弧内に示すは人數）を置きて各部に於ける編纂の實質的方面を擔當せしむること。

6. 編纂の事務的方面を専ら擔當せしむるため内務鉄道關係より各 2 名計 4 名の編纂臨時嘱託を置くことと編纂嘱託は各委員と聯絡を保ち、抄錄原稿の完成部分を遅滞なく入手し、これが編纂をなすべきこと。

7. 各委員の擔當部門は次の如し、尙委員は抄錄すべき論文標題を選定し、之を分類、番號を附し整理し委員長に提出すべきこと。この期間を約 3 ヶ月間とする。

抄錄すべき雑誌名は編輯委員會に於て決定の上各委員に通知すること。この他に單行本に就ては擔當委員に於て抄錄せらるべきこと。

部 門	擔當委員	助手
1. 土 木 一 般	山崎委員	(1)
2. 応 用 力 学	山口、安宅委員	(3)
3. 水 理	宮本、廣瀬委員	(1)
4. 測 量	關、風間委員	(1)
5. 材 料	青木、當山委員	(2)
6. コンクリート	吉田、内山、黒澤委員	(2)
7. 施 工	谷口、大岡委員	(1)
8. 熔 接	青木、大久保委員	(2)
9. 河 川	宮本、伊藤(信)、伊藤(剛)委員	(2)
10. 水 力 発 電	高橋、野口委員	(2)
11. 堤 堤	小野、野口委員	(1)
12. 上 水	草間、廣瀬委員	(3)
13. 下 水		
14. 港 湾	鈴木、太田尾委員	(2)
15. 道 路	藤井委員	(1)
16. 都 市 計 畫	樋木、五十嵐委員	(1)
17. 橋 漆 及 構 造 物	田中、安宅委員	(4)
18. 鉄 道	阿曾沼、淺間、風間、立花委員	(9)
19. 隧 道	山崎、末森委員	(2)
20. 雜		

8. 各委員は當該部門に於て依頼すべき助手を至急決定の上幹事へ報告せらるべきこと。

關西支部記事

第 5 回役員會（昭. 13. 6. 8）

出席者： 橋本敬之君、鈴木(義)、石原、岩井、林、鈴木(角)、各商議員、荻原幹事長、鮫島、柴田

兩幹事、坂本、島、岩田、松島、永井、清水、高西各前支部長、山本主事

議 事

- (1) 10 月關西大會に關する件
- (2) 特別員會費徵收の件
- (3) 支部經費に關する件
- (4) 旅費手當支給の件
- (5) 島崎前幹事長に對し胸像贈呈の件
- (6) 其の他

各種委員會

- 土木事業計畫審査委員會第 3 回上下水道部會（昭. 13. 6. 7）
- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 同 | 第 2 回鐵道軌道部會（昭. 13. 6. 8） |
| 同 | 第 1 回河川部會（昭. 13. 6. 14） |
| 同 | 第 2 回橋梁部會（昭. 13. 6. 15） |
| 同 | 第 3 回材料部會（昭. 13. 6. 24） |
| 第 2 回土木技術者資格檢定規則案作成委員會（昭. 13. 6. 13） | |
- 第 4 回工事ニュース編輯委員會（昭. 13. 7. 2）

講演及映畫會

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 日 時： 昭. 13. 6. 22 | |
| 場 所： 朝日會館 | |
| 講 演： | 爆擊の跡を見る 近藤泰夫君 |
| | 大阪内港問題 三輪周蔵君 |
| 映 畫： | 爆擊の跡、大阪地下鉄工事、仲鉄工業 |

日本工學會記事

○昭和 13 年 6 月 21 日日本工業俱樂部に於て日本工學會臨時社員總會を開催し次の事項を決定せり。

理事長に工學博士俵國一君當選就任せり。

そ の 他 記 事

○昭和 13 年 6 月 24 日第 2 回年次學術講演會プログラムを全會員に配布せり。

○昭和 13 年 7 月 1 日土木學會誌第 24 卷第 7 號を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

○井上秀二、青山士兩君は中支土木事業の視察を了し昭和 13 年 7 月 3, 4 兩日歸朝せられたり。

入會及転格會員

特別員（入會）

大阪市役所	坂間 棟治君	中井 光次君	三宅 正三君
	森下 政一君	木津谷 荘三郎君	橋本 敬之君
	内山 新之助君	島崎 孝彦君	福留 並喜君
大阪鉄道株式會社	藤尾 専一君	福永 順造君	柳島 勇君
株式會社鹿島組大阪營業所	小野 威君	村井 佐八君	森本 多三郎君
株式會社栗本鐵工所	栗本 順三君	川谷 恒規君	吉木 源之助君
北海道炭礦汽船株式會社	藤井 輝七郎君		"

會員（入會）

岡本 正君	兵庫縣鷹取土木部都市計畫課	川村 茂君	株式會社西松組	畠川英二郎君	福岡縣鷹取土木部道路課
-------	---------------	-------	---------	--------	-------------

准員（入會）

井内 大治君	汽車製造株式會社	佐藤道之介君	臺灣電力株式會社	政井 弘安君	神奈川縣相模川河水統制事務所
巖 巾登君	京都府綾部土木事務所	斎藤 英一君	群馬水電株式會社	松井 信正君	東京市水道局擴張課
小笠原幸一君	北海道炭礦汽船株式會社	清水 正男君	鐵道省工務局計畫課	松並 信雄君	鐵道省電氣局電化課
大久保 甫君	群馬水電株式會社	鈴村 嶽君	愛知縣名古屋港務所	竹輪 喜雄君	神奈川縣相模川河水統制事務所
大澤 滉雄君	東邦電力株式會社	高橋 正治君	東京市水道局擴張課	森田 重一君	日本ガム株式會社
大島 秀信君	満洲國大同學院	谷增 忠之君	廣島電氣株式株會社	柳原 進君	岐阜縣鷹取木課
岡崎 武夫君	神奈川縣相模川河水統制事務所	堤 定君	鐵道省電氣局電化課	弓削 祐武君	臺灣電力株式會社
金田 俊三君	內務省土木試驗所	永山 清松君	淺野物產株式會社	油谷 正治君	滿洲炭礦株式會社
雄島 正二君	愛知縣鷹取土木部河川課	長谷川舟夫君	名古屋醫科大學	吉澤 二郎君	滿洲交通部達河沿水調查處
黒川 元太郎君	逕信省電氣局水力試驗課	樋貝 光治君	群馬水電株式會社		

學生員（入會）

朝倉 信義君	日大工學部	西山 三七雄君	日大工學部	淡川 純和君	仙臺高工
芦田 修君	日大高工	錦戸 善吉君	"	淺川 充吉君	北海道帝大
伊藤 正君	名古屋高工夜學	任 新銘君	"	芦立 巍君	"
岡部 一郎君	仙臺高工	原 喜久市君	京都帝大	遠藤 周君	"
奥田 貢君	德島高工	宮城政治郎君	仙臺高工	大野 一郎君	仙臺高工
奥山 浩一君	北海道帝大	森 勝平君	北海道帝大	川内 雅君	京都帝大
柏谷 與市君	"	安田 善之助君	德島高工	川上 理郎君	北海道帝大
川野 博司君	日大工學部	米山 昌俊君	仙臺高工	阪部 一郎君	"
佐藤 正八君	北海道帝大	多田 正具君	北海道帝大	高橋 一夫君	熊本高工
志賀 恒君	德島高工	玉村 荘二君	"	平井 重郎君	仙臺高工
菅原 忠夫君	仙臺高工	筑紫 泰三君	"	平山 博君	北海道帝大
田川 秀雄君	日大高工	土方 大貳君	"	牧野 和雄君	"
田中 之夫君	北海道帝大	星野 順佐雄君	"		
高橋 治衛君	仙臺高工	松本文 彥君	"		

會員（転格）

成松 清雄君	内務省大阪土木出張所	本城 信治君	内務省東京土木出張所	市來 寛明君	鐵道省熊本建設事務所
伊藤 三男君	新潟鐵道局工務部改良課	石橋 文雄君	奉天鐵道局工務課		

猪瀬 悅至君	株式會社問屋	末澤不二雄君	東京市土木局道路建設課	長谷川盛一君	満鉄遼陽工務局
大塚 謙一君	東邦電力株式會社	杉山 勇君	満鉄四平街工務區	波多江 潤君	奉天鐵道總局工務局保線課
大橋 代嗣君		鈴木 鉢郎君		波多野信正君	北海道炭礦汽船株式會社
川元 有恒君	株式會社大阪鐵工所	鈴木 宜邦君	朝鮮內務局京城土木出張所	橋場 章君	大倉土木株式會社
黒地 政美君	大阪市水道部下水建設課	住友 重春君	鐵道省大阪改良事務所	橋元 柳藏君	三井鎌山株式會社
輿石 一治君	内務省土木試驗所	千田 正彦君	大阪府認土木部道路課	原口 正一君	鐵道省建設局工事課
佐多 直人君	關東州廳土木部土木工事 各務所	堂垣内尚弘君	海軍省建築第局	深澤 正巳君	鐵道省電氣局水力調査課
櫻井 新好君	川崎市土木課	中川 邦治君	内務省安倍川改修事務所	福間 定男君	満鉄安東工務局
皿井 文平君		中川 治郎君	鐵道省工務局計畫課	藤井 勝君	滿洲國大同學院
柴田 貞次郎君	葛林江水力發電株式會社	永井 昌廣君	寧滄川電氣株式會社	松山 爲男君	株式會社昭和製鋼所
瀧谷 源郎君	奉天鐵道總局建設局	仁移 巍君	鐵道大臣官房研究所	横山 順君	大阪市水道部技術課
島田 基三君	満鉄遼陽工務局	新村 剛藏君	奉天鐵道局工務課		
主浪 實君	朝鮮內務局裡里土木出張所	野口 嶽君	滿洲炭礦株式會社		

土木學會々員數

(昭. 13. 6. 20 現在)

會員	准員	學生員	特別員	贊助員	合計
3 000	3 549	675	69	21	7 323

會員 神谷秀吉君 の計報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

准員 寺田 功君 は今次の支那事変に於て名譽の戰死を遂げらる、本會は恭しく哀悼の意を表す。

准員 有田政次君、伊藤千代吉君、大塚 泰君の計報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

土木學會中部發會式及第1回總會記事

(昭和13年5月29日)

本會中部支部を名古屋に設置するの議は昭和12年5月頃から起つて居たのであるが、其の後名古屋市在住會員有志10名が設立發起人と成つて種々計畫を進めた結果遂に5月29日名古屋市御幸本町愛知縣商工館に於て其の發會式と第1回總會を開く事になつた。前日來天候に多少の不安はあつたが、當日は幸にして薄曇であり氣温快適であつたから各係員は喜び勇んで會員の參集を待ち受けた。午前10時迄に辰馬會長を始め22名の來賓と220名の會員の出席を得て氣勢大に揚つた。

(A) 發會式： 午前10時15分開式、次の次第に従つて式を進めた。1. 開式の辭、2. 國歌合唱、3. 1分間默禱、4. 座長推戴、5. 座長挨拶及經過報告、6. 議事、7. 會長挨拶、8. 中部支部長挨拶、9. 宣言、10. 來賓祝辭、11. 視電披露、12. 閉會の辭。

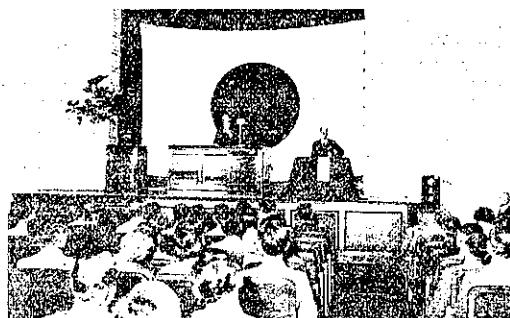
愛知縣道路課長今泉佳三郎氏開式の辭を述べ、一同起立して國歌合唱を行ひ引き続いだ後久祈願の爲1分間默禱した。此の日壇の後壁には大日章旗が掲げられ壇上には緑滴る松の盆栽一鉢が置かれてあつた、此の簡粗なる裝飾は却て會場を嚴肅に保ち且會員の氣分を引締める上に極めて效果的であり、今日の非常時局に對し誠に相應しきものであつた。

座長推戴に就きては塚本積氏より名古屋高等工業學校教授北澤忠男君を推す事を提案し全員の賛成を得たるを以て、北澤氏座長席に就き別項記載の如き支部創立經過報告を述べたる挨拶を行ふ。議事は中部支部規定並に内規の承認と支部長選舉の2つであるが、規定及内規は豫め印刷に附して會員に配布しあるを以て讀會を省略し兩者を一括して計りし所、全會贊意を表したるを以て茲に「名古屋市=支會ヲ置キ之ヲ土木學會中部支部ト稱ス」と云ふ事が正式に成立し中部支部が誕生する事と成つた。支部規定の承認に由り「第1回ノ支部長ハ發起人ノ選舉ニ依リ會長之レヲ委嘱ス」と云ふ附則が承認せられた事になつたから、座長は發起人會に於て矢作水力株式會社副社長杉山榮君を第1回の支部長に選舉した旨を發表した。

次に辰馬會長は別項記載の如く中部支部設立の祝辭を兼て土木學會の現状、現下重大時局に於ける學會の使命、其の他に就き感銘深き挨拶を述べられた。北澤

座長は支部長確定の故を以て降壇し、代て杉山榮君登壇支部長席に就き別項記載の通り挨拶せられた。此の

図-1. 土木學會會長挨拶



時1會員立つて今日茲に數多會員參集の機會に於て我等の抱負を示す宣言を成すべしとの緊急動議を提出したる所全員之に賛成し、宣言文は發起人會に於て立案する事に定まつたので、發起人會は次の如き宣言文を發表し滿場拍手の中に之を承認した。

宣言： 本日茲ニ社團法人土木學會中部支部ノ設立ヲ見ルニ營リ我等會員ハ一致團結、奮鬥努力、現下ノ重大時局ニ處シ土木技術ヲ以テ報國ノ誠ヲ致サシ事ヲ期ス

來賓祝辭は 1. 愛知縣知事、2. 名古屋市長、3. 名古屋商工會議所會頭、4. 建築學會東海支部長、5. 電氣學會東海支部長、6. 照明學會東海支部長、7. 土木學會關西支部長の各位より之を賜はり本日の發會式に一段の光輝を添へた事に對し深く感謝する次第である。

來賓祝辭に次ぎ土木學會東北支部長、土木學會北海道支部及富山縣土木課長の各位より送られた祝電が披露せられた。杉山支部長立つて、今回の發會式に當り大なる援助を與へられた大同電力、東邦電力、名古屋鉄道、關西急行電鉄、愛岐水力、矢作水力の各社に對し衷心より感謝の意を表した後、今泉佳三郎君開式の辭を述べ發會式は目出度終了し來賓各位は退場せられた。

(B) 第1回總會： 發會式が終つて10分間休憩の後第1回總會が開催せられた、杉山支部長議長席に着き先づ評議員選舉の件を計る。評議員數は支部内規に由りて18名と定められて居り第1回に選舉せらるゝ評議員の中10名は發起人之に當る事に定められて居るから残り8名を別に選舉すればよいのであり、之に對し支部長一任の意見が出で全員贊意を表したるを以て

杉山支部長は發起人 10 名の外に次の 8 名を指名した。

大串栄太郎君	(金澤高等工業学校教授)
關谷新造君	(静岡縣土木部長)
上井兼吉君	(三重縣土木課長)
平川保一君	(岐阜縣土木課長)
中忠義君	(福井縣土木課長)
三宅發造君	(石川縣土木課長)
大島六七男君	(富山縣土木課長)
城戸銷吉君	(長野縣土木部長)

次に幹事長及幹事の選定であるが支部内規としては評議員會に於て選定し支部長之を委嘱する事になつて居るけれども今回は其の手続を探る事が出来ないので、發起人會に於て選定したものと支部長之を委嘱する事となり次の如く發表せられた。

幹事長 北澤忠男君	(名古屋高等工業学校教授)
幹事 横木積君	(内務省名古屋土木出張所)
同 舟木賀時君	(名古屋鐵道局工務部係課課長)
同 今泉作三郎君	(愛知縣土木部道路課長)
同 三上昭君	(名古屋市土木部工務課長)

次に昭和 13 年度(5月～12月)中部支部事業豫定及収支豫算が附議せられ異議無く可決せられた。

次に秋期に於ける定期總會開催地の件が附議せられたのであるが、中部支部内規第 6 條に「總會開催地ハ總會ノ決議ニ依リ之レヲ定ム、但臨時總會ハ此限リニアラズ」とあるから秋期總會開催地は今日の總會に於て決定する必要があるけれども今創立發會式を終つたばかりであり夫に對する準備が全く出來て居ないので今年の秋期總會に限り後日改めて評議員會に於て慎重に上定める事に一決し是を以て第 1 回の總會を終了した、時に午前 11 時 55 分である。

(C) 来賓招待會 中部支部の今回の計画として午前に發會式及總會を終了し午後 1 時から商工館に於て講演會を開催し、午後 4 時から名古屋市水道淨水場及東山公園見学の豫定である爲一般會員は商工館に於て極めて質素なランチの午餐を攝る事にしたのであるが發會式に臨場せられた來賓各位に對しては御禮を申述べ且將來の御援助を願ふ意味に於て支部長名を以て名古屋觀光ホテルに於ける午餐會に招待する事となつた。デザートコースに於ける杉山支部長の挨拶に答へて辰馬會長は中部支部の健かなる生長を祝福し乾盃をして招宴を終つた。

(D) 講演會(會場一愛知縣商工館講堂) 中部支部は發會式の當日講演會(公開せず)を開催する計畫を立て矢作水力株式會社理事大西英式君、鐵道省計畫課長山

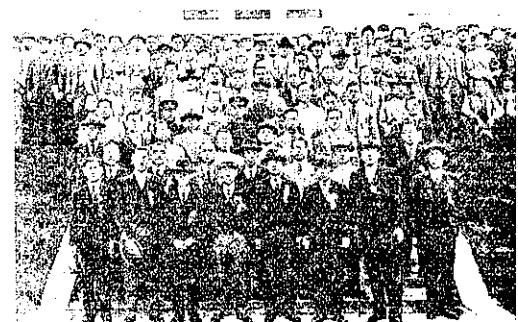
中良樹君及内務技師高橋嘉一郎君に御願した處 3 君共御多忙の中を心良く御承諾になつて次の如き演題に依りて講演せられた

河水統制に就て	高橋嘉一郎君
事変と鉄道改良計畫	山中良樹君
コンクリート高堰堤築造に就て	大西英式君

講演は午後 1 時開始せられた、公開講演でないから聽衆堂に満つと云ふ事にはならなかつたが、聽者は全部斯道の専門家であり講演を充分に咀嚼、體味し得る能力者であると云ふ點に於て講演者諸君も定めし諒とせられた事と思ふ。3 君の講演はいづれも多くの人々が自頃無關心で居た處のものに對し氣付かしめる爲強烈な刺戟を與へる啓發的のものであつて極めて深き感銘を聽衆に與へた、此の點に對し中部支部は 3 君に深甚なる感謝の意を表する。講演終了午後 4 時 12 分。

(E) 第 1 日見學會(午後 4 時 30 分～午後 6 時 30 分) 講演終了を待つて第 1 日見學參加者 180 餘名は貸切市營バスを連ねて鍋屋上野の名古屋市水道淨水場に赴き池田名古屋市水道局長以下係員の懇切なる案内に依りて唧筒室、鉛管製造工場、急速濾過池、クリアフィヤー付沈澱池、緩速濾過池の順に依り詳細見学した後東山公園に向つた。東山公園は昭和 12 年の春汎太平洋平和博覽會の開會に先づて開闢せら立たるもので名古屋市の東部丘陵地帶に位し面積 25 萬坪を占むる一大天然公園であつて名古屋市としては珍しく森林氣分が味へる處であるが、亦一方に於て人智を讃して造上げた東洋一と稱する動物園と植物園とがあり、當日の長学者に對して充分満足を與へる事が出來た。

図-2. 名古屋市水道淨水場で於ける見學記念撮影



(F) 晚餐會(支部長招宴) 東山公園を見學し終つた一行はバスに依つて晚餐會場たる名古屋ホテルに向ひ豫定の午後 7 時開宴の運びとなつた。出席者 130 名である。デザートコースに於ける杉山支部長は立ちて會

講演者並に今回の中部支部の催しに就きて深き同情を寄せられたる各位に對し、亦萬障を縦合せて遠近から出席せられたる熱心なる會員諸君に對して感謝の意を表し、辰馬會長は出席者を代表して謝辭を述べ且つ中部支部の誕生を祝禱し、將來の發展を祈つて乾盃の音頭と取れば全員之に和し中部支部の成長發展に對して努力せんとする會員の堅き決心が會場を圧した。此の時北澤幹事長は目下計畫進行中である名古屋帝國大學の問題に就き緊急動議を提出して賛否を問ふた所満場拍手を以て之を可決した其の要項次の如くである。

名古屋ニ齧、工、理ノ3学部ヲ綜合スル帝國大學ノ設置セラルヽニ當リ其工學部ニ土木工学科ヲ置カレン事ヲ要望ス。本問題ハ極メテ重大ト認ムルヲ以テ土木學會ニ於テ連カニ善處セラレン事ヲ望ム。

中部支部の會員が斯く多數一堂に會する事は度々有り得ないと考へらるゝが故に此の機會に於て各地方から參集した人々のテーブルスピーチを聞く事は極めて有意義であると思はれるので杉山支部長は次の諸氏を指名し約1時間に亘り各地の情況、感想等を聞き中部支部の將來事業計畫に對し大に参考となつた。

富山縣地方金野賢禱君、石川縣地方大串榮太郎君、福井縣地方吉田與三右衛門君、靜岡縣地方須山英次郎君、長野縣地方奥崎益美君、三重縣地方橋本規明君、岐阜縣地方草川清康君、愛知縣地方山口十一郎君、名古屋鐵道局桑野實代嗣君

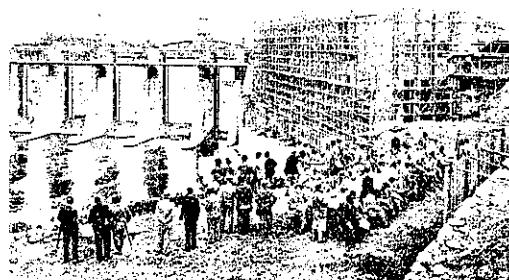
図-3. 中部支部長招宴晚餐會（會長挨拶）



(G) 第2日見学會（昭.13.5.30） 第2日の見学に當てられた5月30日は曇天であつたが、幸に雨は降らない。指定時刻午前8時には見学參加者52名は全部市役所玄關に集合し、幹事の指示に従つて夫々の自動車に分乗し、8時30分出發、大津町通を南下し、熱田駅前から西に廻つて白鳥橋に出で1號國道を一直線にドライブして9時20分に木曾川の尾張大橋に到着した、

此處には關西急行電鉄會社の山口技師が待受けて居り會社が線路を桑名から名古屋まで延長する爲に行つた木曾川橋梁の補強工事及其の附近に於ける關西線の跨線橋工事に關する設計並に施工方法の説明を聞き直ちに實地見学を行つた。此の木曾川橋梁は關西線が使用して居たものであるが、數年前會社に拂下げられ今回漸く3度の務をする事になつたものである。形式はダブルワーレン構造で床桁は直接に下弦材の上に載せられて居り上部横構のみで下部横構を缺いて居る極めて舊式のものである、會社では之を補強する爲に主要構の斜材點叉點から垂直吊材を以て下弦材を吊り曲げモーメントの軽減を計り、上部横構を取外して之を下部横構とし、從つて新しき材料を以て上部横構を構成した。但主要構の高さが不充分である爲、上部横構を普通の位置に取付ければ軌條面と電線との距離が不足する爲已むを得ず横構全部を上弦蓋板の上に取付ける事となつた。跨線橋は一部は鉄筋コンクリート造の桁及構脚から成り一部は鋼製3鍔式ラーメンに依りて支持せらるゝ鋼板桁径間から成立つて居るもので複線敷の上を極めて小なる角度で横切る斜橋である爲に設計施工の上に非常なる苦心が拂はれ居る事が認められる。午前10時に此の現場を離して1號國道を引返し中川運河に添ひて名古屋市内に入り同11時に押切驛に到着し、第2の見学地に向ふべく電車の出發を待つた。午前11時34分に見学團一行のみを乗せた特別仕立の電車は押切驛を出發し間もなく麥刈と桑園とか相錯綜せる尾張平野の眞只中を北に向つて薦進した。此の間小牧山、尾張富士、犬山城等を或は近く或は遠く眺めつゝ晝食を攝つたのであるが、電車内に食卓を設けビール、サイダー等の飲料まで添へられた名古屋鐵道會社の厚意に對しては衷心より感謝する處である。午後0時30分列車は今渡驛に到着し、徒步で愛岐水力發電所工事現

図-4. 愛岐水力發電所及堰堤の一部



場に向つた。此の現場に於ては臨時に調へた板塀の上に計畫概要や図面を張付け其の前に椅子、テーブルを設け見学者は茶菓の饗應を受けつゝ図面を眺め且説明を聽くと云ふ趣向であつて、山東建設所長や大村技師の周到なる準備と懇切なる説明に對し深甚の敬意を表する次第である。愛岐水力今渡發電所の特色は夫が逆調整發電所である點である。即ち木曾川筋及飛驒川筋に於ける幾多の既設發電所は概ね相當に大なる貯水池を有し夫々必要に応じて貯水を調整しつゝ發電を行つて居る爲、下流に於ては河川の状態が不自然となり從つて種々の問題を惹起するに鑑み、木曾川と飛驒川の合流點より約 870 m の下流に於て木曾川本川を横断して長さ 308 m の堰堤を築造して調整池を設け上流發電所より流下する河水を一時此の調整池に包容し堰堤下流の流水が自然状態になる様に調整放流するものであるが、此の放流水は調整池満水状態の時 12.8 ~ 13.3 m の有效落差を持つ事になるので茲に逆調整發電が成立つわけである。放流する流量は最大 170 m³/sec、當時 16 m³/sec であり從て發電力は最大 17 100 KW、當時 8 285 KW である。此の工事施工に當り天然の地形と地質の關係上極めて困難なるべき現場に於て各種工事が着々として豫定期日に竣工しつゝある事は工事施工設備が良く整備して居る事と關係技術員各位の不斷の努力に依る事勿論であるが、亦此の工事を請負つた間組が努力して居る事も見逃がされざる處である。間組は木曾川を挟んで兩岸に合計 1 565坪の倉庫を建て購買部、大食堂、大浴場、醫務室、塵芥焼却場、子供運動場等を設けて工事關係の職員、職工、工夫及び其の家族の生活上の利益を計り衛生保健に留意して居る點は注目に倣ひするものである。

午後 2 時 30 分豫定の見学を終り、6 艘の小舟に分乗して木曾川を下り午後 3 時 40 分犬山橋に着いたのであるが、其の間名古屋鉄道株式會社より一行の爲特に派遣せられた玉田案内人は絶へずメガホーンを口に當てて刻々変化する木曾川の風光に對し色々説明してくれた事は一行に對し忘れ難き記念となつた。

犬山橋に於ては名古屋市水道取水口事務所に於て少憩の後、午後 5 時 1 分發の特別電車で犬山橋驛を發し 5 時 37 分押切驛に着、第 2 日の見学を無事に終了した。

(1) 挨 捭

座 長 北 澤 忠 男

本日茲に閣下各位多數來賓の御臨席を得て土木學會

中部支部の設立發會式を舉行するに當りまして座長に推されましたことは私に取りての光榮何者も之に過ぐるもの無し、謹で御受を致す次第であります。顧るに土木學會が設立せられまして以來 25 年を閱みする間に置きまして會員の數は逐年増加して今や 7 000 人に達するに至り、亦事業としては土木學會誌を發行し、講演會や見學會を開催して會員の知識の向上に努力し來つた外、各方面に亘りて調查研究の機關を設けて我國土木事業の發達改善を図り以て我國文化の發展、產業の興隆に貢獻する處頗る大なるものであります。然し乍ら一方に於て其の包容する區域が甚廣大である爲會員が均等なる機會を得る事が困難であり、夫故に會員であり乍ら往々學會に對する認識を缺くが如き者の有る事を多年遺憾として居つたのであります。之が對策としては地理的關係に從つて支部を設置する事が最適切妥當であると考へられる様になり、既に今日迄に關西支部、東北支部及北海道支部の設置を見るに至つた次第であります。我國の中部に位する東海地方及北陸地方は鐵道局、內務省土木出張所、遞信局等の業務を通じて結ばれて居る地方であります。依て是等地方を包括する土木學會支部を設けて土木學會の事業の一部を負擔し以て此の地方在住會員の知識並に技術の向上を計り且土木事業の發達に寄與すべきであると云ふ議が起りまして昨年 5 月以來支部創立の準備に着手し名古屋市在住の會員中より 10 名の者が發起人と相成りまして種々計畫を行ひ、關係各地の主なる會員と連絡を取りまして漸次支部設置の實現に向つて努力致し、支部規定及内規を立案して土木學會の承認を求め、遂に本日を以て當支部設立の發會式を舉行するに至つた次第であります。而して當支部が包含する地方は我國の中部に位するが故に之を中部支部と命名し、愈々第一步を踏み出す事になりました。幸に會員諸君の熱烈なる御支援を得て着々と進歩發達するを望んで止まざる所であります。

土木學會會長 辰馬 錦 藏

本日中部地方の愛知、三重、岐阜、長野、富山、石川、福井の 8 縣を包含した土木學會中部支部の發會式を舉行せらるゝに當り一言會長として御挨拶を申上げます。土木學會は大正 3 年創立せられ爾來 25 年、我國土木工學及土木事業の進歩發展に寄與する所大にして益其の權威を高め、今や會員數 7 000 餘名の多きに達し愈隆盛に赴きつゝある事は偏に會員各位の盡力の賜であります。今回支那事變に就きましては東亞永遠の平和確立の爲聖職が統けられ、此の職業を完ふする爲には國民一致

力、奮闘努力せねばなりません。此の際土木学会としては時局對策委員會を設けて處すべき方法を研究して居ります。由來我國中部地方は偉人、傑士の輩出多く、物質豊かにして産業が盛んであり人的的に極めて恵まれたる地方であり、名古屋市を中心として顯著なる發展を遂げ來つたのであるが、現下の時局に當り尙一層此の地方の抱藏する資源の開發に邁進し、生産力の擴充に努力せねばなりません。是には先以て水力發電、治水、道路、鐵道、都市、土木事業等を計畫實施する事が絶対必要であると信んずるものであります。此の時に當り中部8縣の土木に携はる人々が相集まり中部支部を發會せられましたのは洵に意義あり慶賀の至りに存じます。

何卒會員各員には今後益技術報國に邁進し共々に相互の聯携親密を計り斯界の隆盛同上に盡されんことを希望する次第であります。

中部支部長 杉山榮

只今は私圖らずも土木學會中部支部の支部長として御選舉に賛り誠に身に餘る光榮に存する所であります。

我國には學會、協會等實に多數設置せられて居るのであります。其の中で我土木學會は歴史が古くして會員數が多いと云ふ事のみならず長き間に亘り功績顯著なる事は我々會員として大なる誇を感じる次第であります。此の名譽ある土木學會の中部支部が當地に發會せられ其の初代の支部長として私が其の任に當る事は無上の光榮であります。謹て私自身を顧る時、私は今から30餘年の昔土木工学を修めた者であります。30年前の昔に於ては学校で習った事は實地の仕事に對しては直接に何等の役に立たず、學問や技術を應用せんとしても應用すべき所が無かつたのであります。故に私は此の年月土木には關係して來たのであるが、大体常識に由つて仕事をして來た爲昔学校で習った事は殆んど忘れてしまふ様になりました。然るに今に於ては学校で學ぶ事と實社會に於て實行して居る事との間に差は無いと云ふより寧ろ實社會の方が多少進んで居るの觀があります。從て私自身は現在の土木學會の會員たる資格の有無をさへ疑問として居るのに僭越にも支部長の榮職を穢す事は身の程を知らないと申すべきであります。實は發起人諸君に對し御断りを申上げたのであるが御開入が無く亦一方に於て私が常々其の功績に對して敬意を拂つて居る土木學會の會長の御委嘱もある次第でありますから、無理に御断りするのも如何かと思ひ遂に御受けする決心を致しました。此の上は各位の御熱心なる御指導と御援助とを得て、せめて職責の萬分の一たりと

も盡したいと念願し御挨拶とする次第であります。

(2) 祝辭

愛知縣知事 田中廣太郎

社團法人土木學會中部支部の創立成り本日をトし茲に之が發會式典を舉行せらる。惟ふに土木の事たるや其の範圍極めて廣汎にして之が振否は一國文化の普及産業の興隆に影響する所頗る大なり。從て其の施設經營の方法は常に時運の趨勢に順應するものたるを要し、之が知識技能の向上の進歩を圖るの目的を以て夙に社團法人土木學會の中央に設立せらるゝあり、爾來年と共に盛大を致し其の一般土木に關する研究調査各種の會合等は斯界の指針となり、我が國土木事業の振興に有益するところ蓋し鮮少ならざるを信ず。由來我が中部地方は本土の中央に位して最も廣大なる地域を擁し山地に發源する河川に潤されて沃野相望み商工業は農山漁業の富源と相俟て大小の都邑を形成し水陸共に各種土木の施設に俟べきもの多く、特に現下重大時局に直面し愈々産業の擴充を要するの秋、地域的に密接なる關係を有する中部8縣下會員の熱意に依り之を一團とする同會支部設立の企圖今や將に成り會の擴大強化に一段の力を加ふ洵に慶賀に堪へざるなり。

希くば會員各位益々和衷協力支部設立の趣旨に鑑み更に一段の研鑽を加へ機能の發揚に努め國運の隆昌に寄與せられむことを一言以て祝辭と爲す。

昭和13年5月29日

名古屋市長 大岩勇夫

薰風俎かな初夏の好季節茲に社團法人土木學會中部支部設立發會式を舉行せらるゝに方り、一音御祝辭を申述べるの機會を得ました事は私の最も欣幸に存する所であります。

社團法人土木學會は創立以來既に20有餘年の年月を閱し其の間非常なる發展を遂げ常に貢獻なる態度を持し德義と名譽とを重んずる會員の方々の専門的知識と經驗とに依りまして土木工学並に土木技術界に大なる貢獻をなし我國文化の向上に寄與する所頗る顯著なるは吾々の常に敬服能はざる所であります。

顧ふに斯界の進歩發展は畢竟會員の方々の不斷の努力の綜合に外ならないであります。之が爲めには會員の方々が正しく學會の精神を認識され聯絡協調して事に當らるべきであり、此の實現には地理的に結ばれて居る地方地方に従つて團結する事が最善の策であると考へられるのであります。

されば今回中部地方即ち静岡、愛知、三重、岐阜、福井、石川、富山及長野の8縣下に在住せられまする有力なる會員の方々が相謀られまして本市に土木學會中部支部を設立せられ、今後中部地方に直接關係ある土木の問題を取上げて調査研究を進められまするのは眞に結構な企でありますと、會員相互の親睦を計る上にも效果大にして土木學會の爲ばかりでなく邦家の爲誠に慶賀に堪へない所であります。

義に關西東北及北海道に夫々支部の設立を見ましたのも此の趣旨に他ならないと確信するのであります。

今や我國の情勢は内外非常の時艱に遭遇致し朝野を擧げて國力の伸展に邁進しつゝあるのであります。希くは會員各位に於かれましては此の意義ある發會式を契機に會員和衷協同の實を擧げ中部日本の文化的施設の進歩改善に一大工夫を凝らし戰時体制下に於ける土木報國の道に邁進せられんことを切望して止まない次第であります。

こゝに土木學會中部支部の發展を祈り一言所懐を述べて祝辭と致します。

昭和 13 年 5 月 29 日

名古屋商工會議所

會頭 青木録太郎

本日茲に社團法人土木學會中部支部設立の式典を挙げられまするに當り、一言祝辭を申述べる機會を得ましたことは私の最も欣幸とする所であります。

今更申上げるまでもないことではありますが、土木工学並に土木事業の發達は吾々の社會生活並に經濟生活の向上に密接なる關係を有するものであり、延いては一國の文化並に產業の振興の基本を爲すものであります。茲に觀らるゝ所があり土木工学の進歩及土木事業の發達を図るが爲、義に社團法人土木學會を設立せられ或は調査研究に或は講演會、講習會の開催に或は當局への建議若くは諮詢等各般に亘る有益適切なる御事業を遂行せられました御功績に對しましては衷心より欣快に存ずる所であります。然るところ今回當地を中心とする静岡、愛知、三重、岐阜、福井、石川、富山及長野の縣下に在住せらるゝ土木學會會員の諸君が御協議の上中部支部設立の議が熟して本日茲に發會の盛典を挙げられますことは中部日本が我國產業地帶として最も重要な地位を占め從つてその先驅を爲すところの土木事業の發達を促して止まない事實に鑑みまして洵に慶賀の至りに存じますとともに當地方の軍事上並に國防上の要衝

たる地點なるに想到して愈々この欣びを深くいたず次第であります。殊に土木事業は河川、道路、港灣等の改修、鉄道、橋梁等の敷設發電所の建設、都市計畫の樹立等その領域は極めて廣汎に亘るものであります。當地方を本據として生れ出づる當支部の使命たるや寛に重大なるものあるを痛感いたす次第であります。今や時局は益々重大を加へ生産力の擴充國防の充實に備へて各種土木事業の普及土木工学の振興は極めて緊要なるものがあります。何卒役員諸君並に御關係の皆様に於かせられまして當支部をして順調に成育し發展せしめられまして邦家の爲に寄與貢獻せられますやう切望いたす次第であります。

一言所懐を申述べまして祝辭といたします。

昭和 13 年 5 月 29 日

建築學會東海支部長 土屋純一

茲に土木學會中部支部設立成り本日をトして發會式を舉行せらるゝは寛に慶賀に堪へざる所なり、惟ふに土木の事たるや國家興隆の基幹をなし地方産業の消長に重大なる關係を有するは固より延いて國家經濟に及ぼす影響亦甚大なるものあるは敢へて多言を要せざる所なり。今や時局は極めて重大にして國力の充實最急を要する時、我が國産業の中核たる中部地方 8 縣下の土木専門家が更に團結を強固とし愈々事業の開發學術の振興に邁進せらるゝは單に中部日本のみならず邦家のために慶賀に堪へざるなり。

方今土木界の問題は益々廣範圍に涉り建築界の問題と直接相關連し其の連繫強化愈々必要ならんとす。冀にくは支部會員各位本支部設立の趣旨に鑑み更に一段の意を須ひ兩學會相携へて斯道の研鑽其の活用に努め益々斯界の隆盛向上を策し以て非常時下的國運の進展に貢獻せられんことを。一言所懐の一端を陳べて祝辭とす。

昭和 13 年 5 月 29 日

電氣學會 東海支部長代理 田中敏郎

本日茲に土木學會中部支部發會の盛典を舉行せらるゝに當り親しく祝意を表するの機會を得たるは光榮かつ欣快とする所なり。

當地に今日土木學會支部の設立を見たるは本地方土木事業の隆盛なるに對し寧ろ過かりし感は存れど、今後尚ほ學會の活動に俟つもの渺とせず。幸ひに一協力以て中部否本邦土木界の爲に貢獻せられん事を

特して止まざるものなり。電氣學會東海支部を代表し些か謹辭を述べて祝意を表す。

昭和 13 年 5 月 29 日

照明學會東海支部長 清水 劲二

時正に國家總動員の非常時に當りまして中部日本の土木界を叫合し茲に土木學會中部支部の創設を見ました事は誠に意義深く邦家の爲慶祝の意を禁じ得ないものであります。思ふに本邦土木界は日に月に進展し内地の施設は近來大いにその面目を一新したるの感を深くするものがあります。尙ほ歐米のそれに比して優れたりといふを得ないと思ふのであります。又學會の事は常に向上の一路を辿るべきものであります。未だ研究を要する無数の事項が將來に残されてをります。

然るに吾國の學界は地方に濟々たる有能の士を有しながら學術の研究は中央を主とする弊風を有すると思考するのであります。我が中部地方は由來發達、港灣、都市施設其の他土木事業の盛なる地方であります。従つて學識経験を兼備したる幾多の人士が既に學界的活動に依り各方面に寄興貢獻してせられるのであります。今回學會支部の創設に依りまして國家總動員の趣旨に則り一層根柢の深い研究と統制ある活動をせられまして 120 萬大名古屋文化都市を中心にして地方的特色ある學會の成績を挙げられ以つて中部日本、全日本、否本邦の土木技術に期待する所多き滿支大陸の土木學會の將來に貢獻多からん事を希望して止まぬものであります。

聊か謹辭を述べて祝意を表する次第であります。

昭和 13 年 5 月 29 日

社團法人土木學會關西支部

支部長工学博士 島崎 幸彦

本日社團法人土木學會中部支部の發會式を舉行せられるに當り關西支部を代表して御祝意を表することを得ましたことは私の胸に光榮に存するところであります。

本學會が創設せられまして以來年と共に益々健全な

る發展を遂げ會員は既に 7000 人の多數り各種學會中に於ても最も大にして而もとして着々巨歩を占めその光輝を増してとは偏に皆様の熱誠なる御支援と御努力して感謝に堪えぬ次第であります。近年更に機運が醸成せられまして各地には続々支分部で參りました。即義には東北支部或は北立せらるゝに隨ひ今又中部支部の誕生をします。將來之等各支部は相携えて技術の研學會本來の目的を達成して行きますならにのみならず邦家の爲同慶の至りと存づます。現下の吾國は未嘗有の時局に直面し上打開に遭遇して居ります。之は畢竟するに和確保と更に偉大なる文化建設への一路であります。従つて技術こそは今後来るべき最も大なる要求であります。故に吾々を磨き斯界向上の爲一層精進して行き度いあります。これこそ技術家として國に報ずる道でもあると信するのであります。茲に一言と致しますと共に當支部將來の發展を祈ります。

昭和 13 年 5 月 29 日

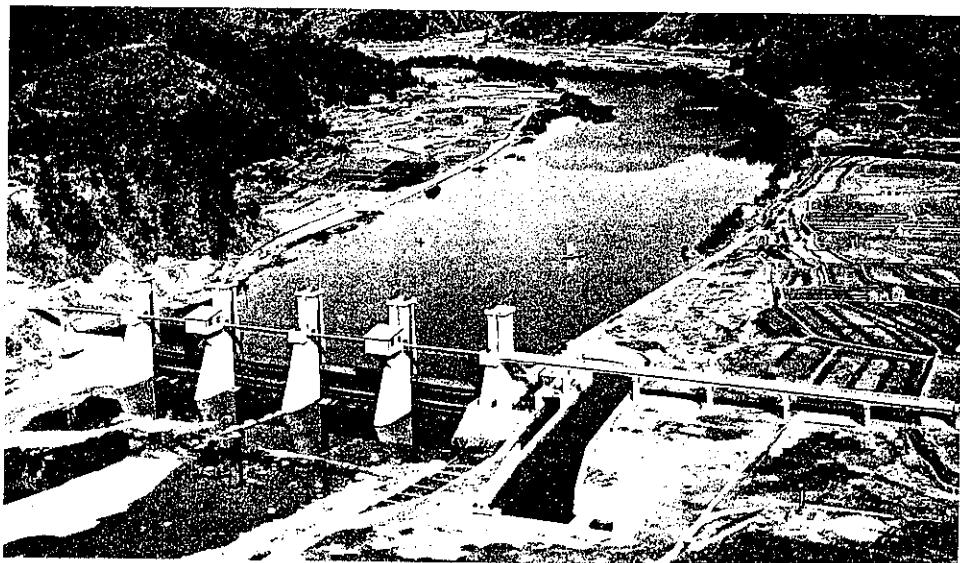
土木學會中部支部役員

支部長	杉山 義	
評議員	○池田篤三郎	上井 兼吉 ○1
	大串榮太郎	大島六七男 ○3
	城戸 鉄吉 ○北澤 忠男 ○4	
	關谷 新造 ○永田 民也	
	○花井又太郎 ○島山 好伸	
	三宅 發造 ○山口十一郎 ○1	
幹事長	北澤 忠男	
幹事	今泉佳三郎	探木 積 ○3
	船本 貫時	

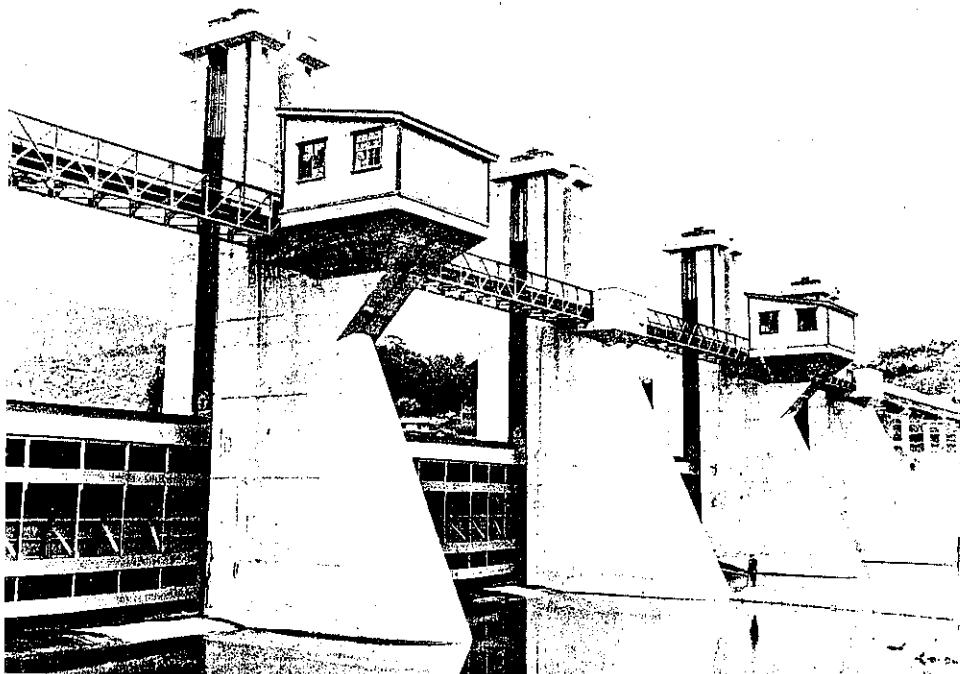
備考： ○印は中部支部創立發起人

渡川水力佐賀發電所

完成したる取水口附近全景



完成したる水門下流側

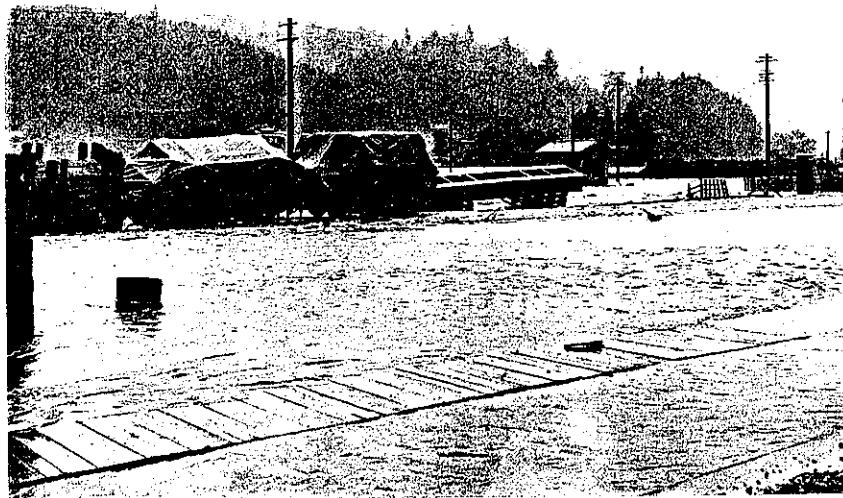


高知縣高岡郡宿川町家地門地内幹線渡川より引水し、幡多郡佐賀村大字市野川に至る。有効落差 154.3 m, 許可使用水量最大 $8.35 \text{ m}^3/\text{sec}$, 発電力 10 700 kw, 本發電所發生電力は 106.5 km の愛媛縣新居濱市所在四國中央電力株式會社第 2 火力發電所へ送電す。昭和 11 年 3 月着手, 昭和 12 年 12 月竣工。

水戸附近に於ける國鉄水害狀況

(昭和 13 年 7 月 発生)

常陸大子驛構内浸水状況 (昭. 13. 7. 2. 撮影)



常磐線 113 km 700 m (緑岡・水戸間) 附近線路浸水状況 (昭. 13. 7. 1. 撮影)



寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
2. 頁數 頁數は本會の原稿用紙 160 枚(本會誌 30 頁)以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
3. 文体 文体は文章的口語體とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
4. 書體 橫書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば α と u , v と u , a と e , α と γ , β と γ , δ と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
5. 數字名數 数字は 3 衔毎に間隔をあける事。名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
 $35 銭 (三十五銭)$, $13.56 円 (十三円五十六銭)$, $1\sim4$ 時間 (一時間乃至四時間),
 $88,326 t$ (八萬八千三百二十六噸), 昭 13. 1. 1 (昭和十三年一月一日),
 m (米), m^3 (立方米), kg (キ), $83.4 尺$ (八丈三尺四寸)

6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し。(本會制定用語は本會發行の土木工学用語集参照)。

例へばコンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。

7. 図表
 - (1) 図表は図-1, 表-1 等と書き図表題を記すこと。
 - (2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
 - (3) 図面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロース等とすること。
 - (4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
 - (5) 方眼紙は青野のものを用ひ(黄色、赤色の野は使用せざる事)縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
 - (6) 図表の文字數、字は特に大きく書かれ度し縮寫の標準は $1/2\sim1/5$ 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 $2 mm$ 程度となる様され度し。
- (2) 図表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。

8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。

9. 其他
 - (1) 論説報告は邦文に限る。
 - (2) 論説報告には必ず冒頭に英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。

- 附記
 - (1) 報報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
 - (2) 講演、論説報告の各欄に掲載の分には抜刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り賞費にて御要求に応じます。

図書室及娯楽室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御隨意に御閲覧下さい。尙娯楽室には碁、将棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日　自午前9時至午後8時，自7月21日　至8月31日　及土曜日　自午前9時至午後4時，
自1月4日至7月20日　自午前9時至午後8時，至8月31日　及土曜日　自午前9時至午後4時，

但し　日曜日及祭日休

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず学会宛御寄贈下さい様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 費用 金 50 錢（郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す）



會 告

土木映畫資料懸賞募集

下記規定に依り土木映畫資料を懸賞募集致します、奮て応募して下さい。

1. 内 容： 土木に関する知識の普及を目的とする劇映畫、文化映畫の筋又は脚本及實寫、編輯。
2. 形 式： 必ず梗概（1500字以内）を附すこと。
必ずしも「シナリオ」の形式に依るを要せず。
3. 應募資格： 一般（必ずしも土木學會々員たるを要せず）。
4. 締 切： 昭和 13 年 8 月末日。
5. 審 査： 土木學會文化映畫委員會委員及適當なる専門家に依頼す。
6. 賞 金：
1等 100 円 1名
2等 30 円 2名
佳作 賞品 若干名
7. 発 表： 入選者は土木學會誌第 24 卷第 11 號にて發表す。
8. 備 考： 応募原稿は返却せず。
入選せる原稿に關する總ての権利は土木學會に屬す。
9. 申込所： 東京市麹町區丸ノ内 3 ノ 6 土木學會

會 告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員

荒川參太郎君	稻葉彌吉君	木村貫一郎君	小林源次君
藤増能君	山本保之助君		

准 員

和泉高嚴君	池田乙次郎君	池田角太郎君	緒方政雄君
大森鶴吉君	佐藤與吉君	徐三善君	栗田忠治君
小林義雄君	野口金太君	關佳夫君	曾我進君
船橋貞一君	高橋理三郎君	本橋二郎君	吉見嵐隆君
中野順太郎君	難波壽一君	劉作樺君	濱崎頼四郎君
平木源太郎君	宮田肇君	横田清治君	石原三郎君
齋藤賢策君	多田安三郎君		

時報、會員の頁記事及工事寫真募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- A. 土木工事の計画、設計、施工の進捗、竣工の状況、金額等のニュース
- B. 土木工学界の内外学協会、調査会、委員会等の設立、調査研究事項並に報告其の他會議、催物の簡単なる紹介
- C. 官廳、會社、公共團体の組織事業に関するニュース
- D. 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣工せる工事の寫真を募集致します。寫真にはその工事の簡単なる説明を御記入下さい。

◎掲載の分には薄謝を呈上致します。

寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
2. 頁数 頁数は本會の原稿用紙 180 枚(本會誌 30 頁)以内とされ度し。若し前記頁数を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
3. 文体 文体は文章的口語体とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
4. 書体 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
5. 数字名数 数字は 3 行毎に間隔をあける事。名数は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 銭(三十五銭), 13.56 円(十三円五十六銭), 1~4 時間(一時間乃至四時間),
88 326 t(八萬八千三百二十六噸), 昭. 13. 1. 1. (昭和十三年一月一日),
m(米), m³(立方米), kg(班), 83.4 尺(八丈三尺四寸)

6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し。(本會制定用語は本會發行の土木工学用語集参照)。

コシクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。

7. 図表 (1) 図表は図-1, 表-1 等と書き図表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 図面はその縮縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロース等とすること。
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さず事。
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ(黄色、赤色の野は使用せざる事)縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 図表の文字數、字は特に大きく書かれ度し縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2 mm 程度となる様され度し。
(7) 図表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。

8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。

9. 其他 (1) 論説報告は邦文に限る。
(2) 講演及論説報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。

- 附記 (1) 施報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演、論説報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に応じます。

会誌編輯委員			
委員長 山崎匡輔	伊藤剛	大岡禮三	大川一郎
委員 伊藤信	風間武雄	黒澤喜代治	當山道三
太田尾廣治	廣瀬孝六郎	安宅勝	
野口誠			
編輯嘱託 糸川一郎			

会員転居転勤の場合の注意

会員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

会費納付に付き注意

会 費	会員種格	会費年額	第1期分 (1月~6月)	第2期分 (7月~12月)
会 員		金 12 円	金 6 円	金 6 円
准 員		金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
学 生 員		金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第1期分：3月 第2期分：9月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16328 番へ願ひます。

朝鮮満洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成度し。

会費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下され度し。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は会費滞納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り会誌の配布を停止せられます。

会誌未着の場合の注意

会誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月經過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌 残部 内譯

(* は残部有るものと示す)

號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
													(円)
卷5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	1.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
18	—	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	—	—	1.00
20	—	*	*	—	—	—	—	—	—	*	*	—	1.00
21	—	—	*	*	—	*	—	*	—	*	*	*	1.00
22	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	1.00
24	—	*	—	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—
第 20 卷第 12 號(創立 20 周年記念號).....													1.50
第 21 卷第 7 號(會誌索引付).....													1.30
震害調査報告書(1, 2, 3).....													18.00
応用力学聯合大會講演集.....													1.00
鉄筋コンクリート標準示方書 同 上 解説.....													1.00
土木工学論文抄録.....													3.50
土木學會誌索引(第 1 卷第 1 號—第 20 卷第 12 號).....													0.50
昭和 9 年關西地方風水害調査報告.....													1.80
土木工學用語集.....													2.50 (送料別)

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を銀替口座東京 16828 番に挿入用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣告 料

普通廣告 1回 1頁 35円 1回半頁 20円

指定廣告	裏表紙 3 面對 向及廣向初頁	1回 1頁 40円
	裏表紙 3 面 色アート	1回 1頁 70円 1回 1頁 60円

○指定廣告は凡て 1 年継続申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の 1 割引とす

○同一廣告の連續掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXIV, NO. 8, AUGUST. 1938.

CONTENTS

	Page
Proceedings of the Society.	73
Address.	
On the Construction Method of High Concrete Dam. <i>By Eiiti Ōnisi, C. E., Member.</i>	823
Papers.	
Computations of the Impediment Modulus of the Filtration. <i>By Tomihisa Iwasaki, Dr. Ing., Member.</i>	827
Report of the Air Raid Precautions Committee of the Civil Engineering Society.	855
Notes on Matters of Interest.	863
Abstracts of Selected Articles.	877
Current Notes.	909
Engineering Literatures.	923
Patent News.	931
New Publications.	933

OFFICE

No. 6, 3-TYŪME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

正誤訂正表

任意の数の集中荷重を擔ふ可撓性索縄に就て
(第 24 卷第 7 號所載)

頁	行	誤	正
719	下 7	得られる。	得られるところの
727	上 8	$w = 5.614 \text{ kg}^*/\text{m}$	$\omega = 5.614 \text{ kg}^*/\text{m}$
"	上 17	A は w より	A は ω より
728	下 18	$T_A = 10.448 t$	$T_A = 10.448 t$
"	下 4	$\rho'' = (\theta + 4\rho) - 48 u$	$\rho'' = (\theta + 4\rho) - 4\rho u$
729	下 5	$w = 13.3 \text{ kg/m}$	$\omega = 13.3 \text{ kg/m}$
732	上 5	$g = \frac{W}{l} = \frac{wC_0}{l_0}$	$g = \frac{W}{l} = \frac{\omega C_0}{l}$
"	上 7	$q = \frac{wdx}{dx} = w \sec \phi$	$q = \frac{\omega ds}{dx} = \omega \sec \phi$